

事務事業名		ころ柿共進会大船渡市長賞(副賞)授与事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 総合戦略登載事業	
政策体系	政策名	01 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間	
	施策名	02 地域特性を生かした農林業の振興		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 S58 年度～)	
	基本事業名	02 農業経営の安定支援		☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入	
根拠法令				予算科目	
所属	部課名	農林水産部農林課		会計	款
	課長名	菅原 博幸		項	目
	係名	農政係	電話	27-3111	事業
	担当者	大友 崇志	内線	7122	
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)		・当地方の特産品であるころ柿の生産拡大と商品化を図るため、大船渡地方農業振興協議会が主催する「ころ柿共進会」事業を市は後援している。平成19年度から主催が大船渡市農協に変更となった。 ・この事業により、加工技術の向上が競い合わせ、市場性の高い統一された銘柄品の産出に結びつき、農業生産物の販売額の増加が図られる。 ・共進会で入賞した作品に大船渡市長賞として副賞を授与する。 ・主な業務は、大船渡市農協からの副賞贈呈依頼を受けて①副賞の発注、納品、支払、②授与の立ち会い。 ・事業費は、副賞の購入費として支出される。		全体計画(※期間限定複数年度のみ) 総投入量(千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計(A) 0 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称 単位 ア 授賞式立ち会い日数 日 イ 副賞準備個数 個 ウ	
前年度実績(前年度に行った主な活動)			
主催者である大船渡市農協において開催体制が整わなかったことから、共進会が中止となった。			
今年度計画(今年度に計画している主な活動)			
なし			
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		(6) 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
ころ柿生産者		名称 単位 カ ころ柿生産農家数 戸 キ ク	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		(7) 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
市長賞を授与することによって、品質のよいころ柿を生産する意欲を高めてもらう。		名称 単位 サ 市長表彰人数 人 シ ス	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)			
安定して農業を営む。			

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)
投入量	事業費	単位						
		国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
	人件費	一般財源	千円	0	0	0	0	0
		事業費計(A)	千円	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	1	1	1	0	0
		延べ業務時間	時間	0	0	0	0	0
		人件費計(B)	千円	0	0	0	0	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	0	0	0	0	0
⑤活動指標		ア 日	0	0	0	0	0	0
		イ 個	0	0	0	0	0	0
		ウ						
⑥対象指標		カ 戸	18	18	18	0	0	0
		キ						
		ク						
⑦成果指標		サ 人	0	0	0	0	0	0
		シ						
		ス						

事務事業ID	0489	事務事業名	ころ柿共進会大船渡市長賞(副賞)授与事業
--------	------	-------	----------------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

当地方特産の小枝柿を使用した商品である「ころ柿」の商品化を図り、農産物の安定的な販売を展開していくため、昭和58年から始まった。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

ころ柿生産農業者の高齢化により、ころ柿共進会に出品される作品が減ってきている。
12月の気温が高いため、白粉があがりにくく、ころ柿共進会は平成20年から中止が続いている。
なお、震災により小枝柿の加工施設が流出したが、平成26年11月に日頃市町に加工施設を再整備し、現在ブランド化に向けた動きが進んでいる。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

特になし。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 商品の品評を行い、生産者の生産意欲の向上を図ることにより、市場性の高い商品が作られ農産物の価格安定化につながる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 ころ柿は、大船渡市の特産品になっており、行政として関与すべきである。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 良質なころ柿を作った生産農家を表彰し、生産意欲を向上を図る事業であり、妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 平成20年度以降、実施されていないことから、実施することにより生産者の生産意欲の向上を図る。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響無 ⇒【理由】 ☐ 影響有 ⇒【その内容】 平成20年度以降、実施されていないことから、廃止・休止状態にある。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費の支出がないため、削減余地がない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最低限の人員の対応としている。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っている不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 表彰という行為のため、受益者負担は適切でない。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性

- 現状維持
- 改革改善(縮小・統合含む)
- 終了・廃止・休止

生産者の意欲の喚起としては、事業が継続されることが望ましいが、平成20年度以後実施されていないことから、廃止とする。ただし、ころ柿は当市の特産品であり、商品開発等も行われていることから、再開への機運が高まった場合には検討することとする。

(2) 改革・改善による期待成果

左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。
(終了・廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下	●	×	×

(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等

4 課長等意見

(1) 今後の方向性

- 現状維持
- 改革改善(縮小・統合含む)
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

現時点において、ころ柿共進会再開の予定が無いため一時休止とする。